

# ボールの特性レポート

## BALL REPORT



ボール名	706A	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.520	△RG	0.053	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

**テストボール：706A**

フレアーの幅  インチ

表面加工  
 箱出し状態  
 加工  
 ペーパー  
 ポリッシュ  
 研磨剤

PAPからピンとの距離  インチ

5

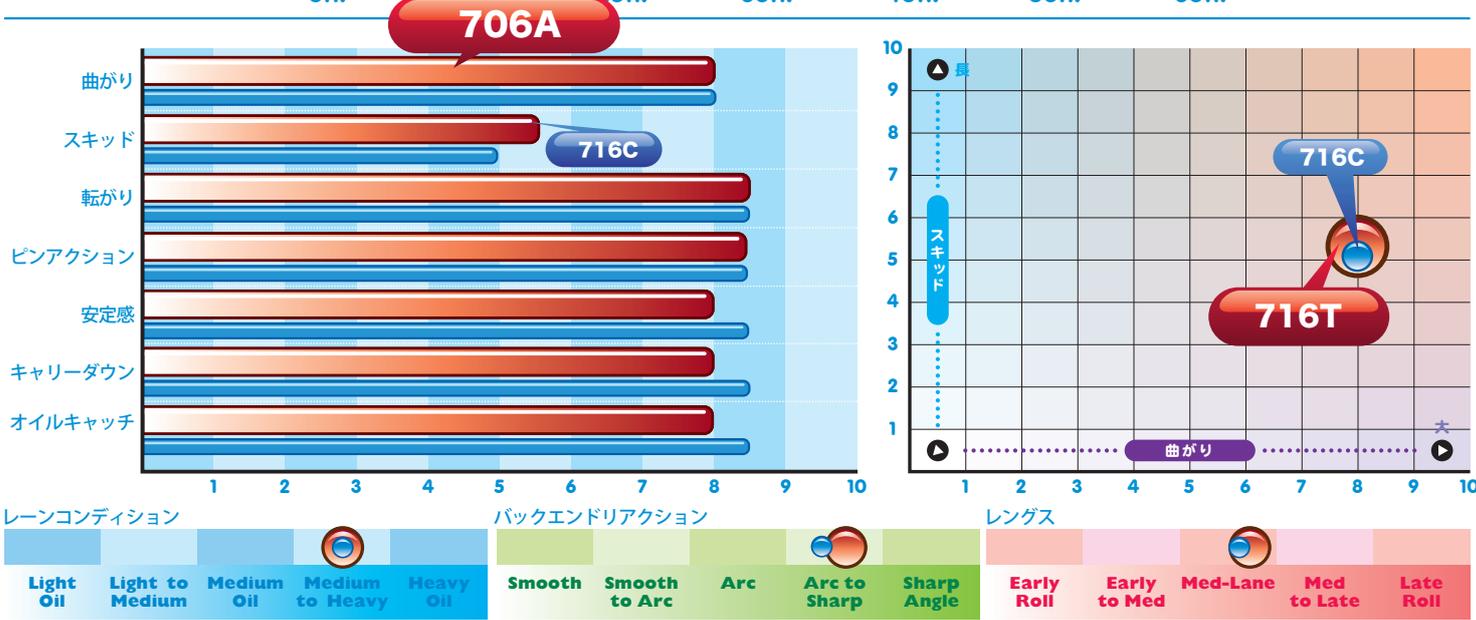
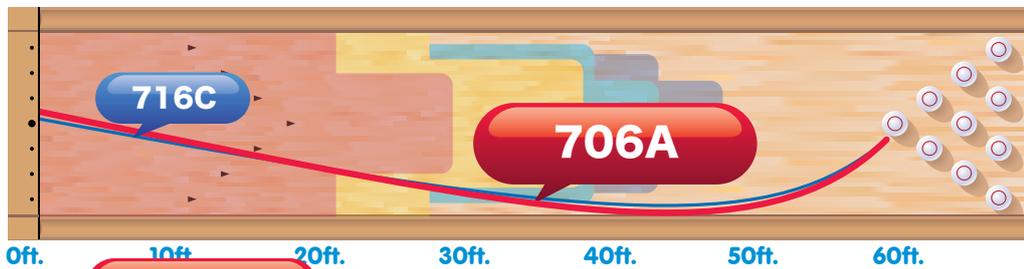
**比較対照ボール：716C**

フレアーの幅  インチ

表面加工  
 箱出し状態  
 加工  
 ペーパー  
 ポリッシュ  
 研磨剤

PAPからピンとの距離  インチ

4



### ボールの評価

前作716Cは昨年全日本女子選手権で決勝進出者2名が使用するなど、「7」シリーズのスキッドからキャッチ感、ピンアクションに至るまで優れたトータルバランスが日本のマーケットにおいて「7」シリーズの良さを再認識させられるとともに、その716Cの活躍があったからこそ、続いて発売された716Tの高評価にもつながったことは言うまでもありません。

今回発売されるこの706Aは716Cと同じUpper Mid Performance領域ですが、「A」(Angular)の性能分布を見出させるために新しいHelmetコアを採用しています。この縦長のコアはRGの数値以上にボールが放たれた瞬間から転がりを感じられるイメージがあり、「7」の領域で「滑らず噛み過ぎない」よう作成されたGen XA (Xtra Angle)カバーストックを纏うことでミディアムコンディションで抜群の運動性能を誇るボールに仕上がっています。

716Cとの比較投球ではコア及びカバーストック、性能分布が違うこともあり、716Cのほうがやや早めの立ち上がりから曲がるイメージを感じました。やはりコントロールを前面に打ち出した場合、ミッドエリアからの動きは必要不可欠であり、706Aの性能分布である「A」との比較と考えると、やや遅れてのリアクションというのはごく当たり前のようにも思えます。しかしこの706Aはリアクションがやや遅れて始まるのに、曲り幅が同じに感じてしまうということは曲がり始めてからの動きが非常に大きいことを表しています。明確に角が出るような急激な向きの変わり方はしませんが、柔らかに切れ込むリアクションでも、それでも「切れる」と感じることができます。私は箱出しのままでも気に入っていますが、気に入っているボールだからこそ、やや表面の光沢を落とし、曇らせることでもう少し上の領域でも使いたくなります。このボールは表面加工の変化であらゆるシーンで使用して頂けるでしょう。

### 特記事項

**人気のナンバーシリーズの「7」の発売です。**  
**505Cの上のパフォーマンスとして、また先での協調された動きを求める方には是非使って頂きたいボールです。**